

令和元年度行政評価について

令和元年度の行政評価は、別紙「令和元年度習志野市施策評価表（平成30年度事業執行分）」により実施しました。令和元年8月5日の習志野市長期計画審議会においては、その内容を報告し、委員の方々から御意見をいただきました。この度の評価の概要は次のとおりです。

平成30年度における前期第2次実施計画の進捗状況

平成29年度から令和元年度までの3年間を計画期間とする前期第2次実施計画は、211事業で構成されています。

平成30年度の各事業の進捗状況は、A（事業が完了）が90.9%、B（事業を実施中）が6.1%、C（事業の着手（変化発生）段階にある）が0.5%、D（事業の検討段階にある）が2.0%となっており、約9割が事業を完了しました。

また、各事業から構成される施策については、その達成度を測る成果指標として、39の成果指標を設定しました。主な施策の評価は次のとおりです。

目標値を達成している主な施策

○「1-2-2 新しい産業の創造」

（成果指標「創業塾受講生の市内における創業・起業数」）（協働経済部産業振興課）

本施策においては、習志野商工会議所等と連携し、創業・起業に関する相談業務やセミナーの開催等に取り組んでおり、創業塾受講生の市内における創業・起業数として、基準値が年に2件、目標値が年に8件を設定し、平成30年度末の実績値は年に8件となり、目標値を達成しています。

習志野商工会議所等の関係機関と連携する中で、創業・起業塾の開催、創業・起業全般に関する相談業務等を行い、創業塾受講生への創業・起業支援に取り組んだことが目標値達成につながったものと捉えています。

○「2-1-3 防犯の推進」

（成果指標「人口1万人当たり市内刑法犯認知総件数」）（協働経済部防犯安全課）

本施策においては、犯罪のない社会の構築に努め防犯施策の推進を図っており、人口1万人当たり市内刑法犯認知総件数として、基準値106.6件、目標値94.3件以下を設定し、平成30年度末の実績値は86.6件となり、目標値を達成しています。

青少年防犯ボランティア「キラット・ジュニア防犯隊」による防犯啓発活動や自主防犯活動団体への支援、市民や職員による防犯パトロールなどが、犯罪発生件数減少に寄与したものと捉えています。

○「3-4-1 男女共同参画社会の実現」

(成果指標「DVの被害経験が過去に「何度もあった」、「1～2度あった」とする人」)(協働経済部男女共同参画センター)

本施策においては、男女がともに生き生きとした豊かな人生を送るため、夫婦間・パートナー間の暴力の防止と対応等に取り組み、男女共同参画社会の実現を図っており、DVの被害経験が過去に「何どもあった」、「1～2度あった」とする人の割合として、基準値43.8%、目標値としては低減を設定し、平成30年度末の実績値は32.5%となり、目標値を達成しています。

女性の生き方相談事業では、年60回の相談枠を設けるなど、相談希望者が利用しやすい体制を整えているほか、市内保育所、こども園、幼稚園、小学校に配布している情報紙「きらきら」に女性の生き方相談について掲載するなど周知を図っていることが、目標値達成につながったものと捉えています。

目標値に達しなかった主な施策

○「1-2-3 就労環境の充実」

(成果指標「ふるさとハローワーク利用者就職率」)(協働経済部産業振興課)

本施策においては、就労環境の充実に努め、勤労者福祉の向上と就労支援を実施しており、ふるさとハローワーク利用者就職率として、基準値18.1%、目標値18.1%を設定し、実績として数値を下げることを目標とするものですが、平成30年度末の実績値は15.5%となっています。

ふるさとハローワークの利用者は少しずつ増えており、事業としての成果は出ていますが、就職率については、利用者が求めている職種や求人条件と事業者側の求人条件のミスマッチが生じていること等が、目標値未達成の要因と捉えています。

○「2-1-2 防災の推進」

(成果指標「自主防災組織の組織率」)(総務部危機管理課)

本施策においては、災害時におけるソフト面及びハード面での対策を進め、防災に対する取り組みを推進しており、自主防災組織の組織率として、基準値63.3%、目標値65.0%を設定し、平成30年度末の実績値は60.6%となっています。

組織数は微増でありながら、町会・自治会(=自主防災組織)に加入しない世帯がそれ以上に増加していることが、目標値未達成の要因と捉えています。

○「2-1-4 消防・救急体制の向上」

(成果指標「普通救命講習の人口比受講率」)(消防本部警防課)

本施策においては、普通救命講習をはじめ、応急手当の普及啓発を図り、市と市民が一体となった消防・救急体制の向上を図っており、普通救命講習の人口比受講率として、基準値3.2%、目標値3.5%を設定し、平成30年度末の実績値が2.8%となっています。

平成30年度より講習会開催方法、普及啓発活動の見直しを図り普通救命講習受講者数は大幅に上昇しているものの、人口増により受講率上昇に至らなかったものと捉えています。

長期計画審議会委員からの主な意見等

令和元年8月5日に開催した習志野市長期計画審議会においては、前期第2次実施計画の進捗状況について報告を行い、各委員からは下記の意見をいただきました。

○1-2-1 商業・工業・農業・観光の推進

- ・「魅力あるまちづくり」「賑わい・活気がまちに必要」という中で、産業を担う人は増えていくべきだと考えている。事業者数の現状維持は非常に難しい目標だということは理解しているが、増加させるという目標も検討してほしい。

○1-2-3 就労環境の充実

- ・高齢者の人口が増え、生産年齢人口が減っていく中、雇用延長の風潮や年金の支給額が段々減少していく状況があり、60歳代以降の就労も重要な問題だと考えている。定年退職後の就労支援や職能教育に関する施策に取り組んでいただきたい。